

全国統一要求（抜粋）

1. 全ての公共工事現場で直接工事費分の単価支払いを実現
2. 砕石、砂利、砂、合材などの骨材運搬の収入も1日4万円以上に
3. 過積載復活させるな



発行所
全日本建設交運一般労働組合
東京都新宿区百人町4-7-2
電話 03(3360)8021
毎月25日発行
1部 50円

車持ちダンプ運転手が1日労働(8時間運転)して貰える単価(全国)

国土交通省積算単価を踏まえて(全国平均:平成27年4月)

数量	単価	金額
軽油 96L	113円	10,848円
ダンプ損料 1,260万円、10年(標準使用年数)		22,320円
タイヤ損料 道路事情(普通の道路の場合)		1,463円
諸雑費(まるめ)		0円
運転手労賃 2省協定平成27年4月一般運転手		16,649円 → (1)
		(全国平均の労務単価)

51,280円 (直工費)

〈直接工事費に関する内訳〉

- 軽油の単価**は、(財)日本エネルギー経済研究所・石油情報センターの全国平均を使用(スタンド渡し)使用量については、国の標準積算は8時間労働、ダンプ運転時間は5.9時間、71L/日で計算しています。組合員の現場の実態は10時間拘束8時間運転になっている。※実際組合員の平均消費量の96Lで計算しています。(実際は現場の工事内容によって異なります。)
- ダンプ損料**は、積算は変更され、標準使用年数が10年になりました。1,260万円が基礎価格です。
- タイヤ損料**は「普通」の単価として出しています。(変更有)
(現場から処理場(移動先)までの道路事情の事を差しています。)
【良好とは】舗装道路その他これに準ずる良好な搬路の進行。
(743円×1.24=921円)
【普通とは】路面がよく維持されている砂利道、これに準ずる搬路の進行。
(1,180円×1.24=1,463円)
【不良とは】破碎岩の混入する搬路または河床路その他これに準ずる搬路の進行が主な工事でタイヤ損料が著しいと認められるとき。
(2,690円×1.24=3,336円)
- 運転手労賃**は、2省(国交省、農水省)設計労務単価を適用。
「2省協定単価とは」前年度元請・下請業者が労働者へ支払った賃金台帳に基づき、調査した結果の良質サンプルの平均賃金を公共工事の積算に適用する労務単価。

〈間接工事費に関する内訳〉

車持ちダンプ運転手がもらえる諸経費の計算内訳

●**51,280円(直接工事費)**+間接工事費に含まれる金額(労働者の雇用に伴う経費:法定福利費、労務管理費、安全管理費など)を加算し、昨年度から積算の基準に用いられました。車持ちダンプ労働者は自らが必要経費(法定福利費等)の全額を負担しています。したがって、労働者の雇用に伴う必要経費として上積みされている経費41%を請求する計算式を組み立てました。

(1)労働者の雇用に伴い必要な経費(労務費+その他の人件費=必要経費)41%
福利厚生費等現場作業における経費の41%を加算します。
16,649円×41%=6,826円を加算します。

51,280円(直接工事費)+6,826円(間接工事費)=58,106円

車持ちダンプ運転手がもらえる単価は、上記金額に消費税(8%)を加算する。

実働8時間稼働 平均62,755円 (落札率は加味せず)

車持ちダンプ労働者 常用単価62,755円

積算単価 直接工事費は5万円以上 元請は適正単価を支払え

国土交通省は、毎年新しい公共工事設計労務単価(税込)となりまして、直接工事費は全国平均(税込)となりまして、3年連続で積算常用単価は引き上げられていますが、ダンプに支払われている単価は変わっていません。全組織がダンプの単価を計算したところ、全国平均で六二、七五五円(税込)を引き上げた経済闘争に取り組みましょう。

国土交通省は3年連続で労務費単価の引き上げについて2月から前倒しで実施しました。車両費、タイヤ、燃料などの実態を反映した積算価格で公共工事を発注しています。組合がこの積算方法を踏まえ、ダンプの常用単価を計算すると図表のようになります。軽油価格は、リッター一三三円(4月時点・税抜き)で計算します。燃料使用量は実態にもとづき8時間稼働で計算します。ダンプやタイヤの損料については昨年と同様の価格です。労務費単価は賃金は、ダンプの場合は一般運転手として扱われています。昨年も全国平均で二八九円引き上げられています。これらを含めた費用「五一、二八〇円」が直接工事費となります。国交省は一昨年から労働者を雇った際の必要経費(社会保険、労災保険、年金、交通費等)について労務費単価の41%相当分を上乗せできることを示しています。この金額を加えてダンプ労働者の二〇一五年度常用単価

の全国平均は六二、七五五円(税込)となります。この計算方法は国交省や国での大臣答弁、全国キャパバン要請行動での各発注当局からも認められています。

経済闘争なくして 単価引き上げなし

ダンプの積算常用単価(工事原価)は、全国平均で二〇一二年「五五、八〇五円」、二〇一五年「六二、七五五円」です。3年前より7千円も単価が引き上げられています。政府が引き上げを実施し

業界団体 単価改善、品確法など 日建連と懇談会を実施

4月8日(水)、建設産別対策委員会は「日本建設業連合会(日建連)との懇談会を実施しました。懇談内容は「単価引き上げ、改正品確法、生コン購入契約」の3点です。

「労務単価の引き上げ」については、日建連側は「平成25年に『労務賃金等改善推進要綱』発表し、会員企業に対して2年間現場の支払い実態調査を実施しました。結果は労務単価引き上げ分と近い離がないと確認しました」と取り組みを説明しました。建設現場部会の横坂事務局長は「群馬県内で県庁発注工事での実態調査をおこない、8割の労働者が『賃金が上がっていない』と回答している。こ

最大の目的は、「労働者の待遇改善」です。低賃金・劣悪な労働条件改善を促し、新規の若い建設労働者を確保することが目的です。しかし、現場では引き上げた分の単価は支払われていません。結局、私たちが経済闘争に取り組みなければ、重層下請構造の中で増加した分は元請や下請のうけになってしまいます。全国ダンプ部会では使用促進・職場闘争の取り組みを各地で展開してきました。これらの到達点を活かした闘いを各地で進めましょう。

のままで国民の批判を受けて、元の単価に戻されてしまふ。公契約条例などを踏まえて、7、8割程度は労働者と支払われるようにすべきだと思ふ」と発言しました。これに対して「日建連としても1次下請には会員企業を通じて徹底していますが、重層下請が弊害になっていると思う。下請には社会保険加入を促すことが効果を発揮すると思ふます」と述べ、会員企業任せの姿勢が明らかになりました。一方で「建設業の長期ビジョン」を3月下旬に発表し、二〇一五年までの建設産業の展望を明らかにしていますが、やる気と中身が伴っていない事が露呈しました。



被災地で困難に負けず就労している静岡ダンブの仲間たち7人(2013年4月1日宮城県角田市内)

続・5年目を迎えた 大震災の被災地から

静岡ダンブ

困難を乗り越えて 被災地で就労参加

東日本大震災の発生を受けて、静岡ダンブ支部では、二〇一二年9月に全国ダンブ部会の震災復興対策の方針を真剣に論議し、東日本大震災の復旧復興工事の使用促進現場への就労を進めてきました。

ダンブの仕事そのものは静岡でも東北でも変わりありませんが、生活するという点では二重生活を余儀なくされることもあり、仲間同士で一軒家を借りて住むことも論議しましたが、長期にわたって生活をするととプライバシーの問題も大きく影響する

ことを考慮し、各自でアパートに居住するという選択をしました。当初は右も左もまったく分からない土地でしたが、静岡ダンブ支部として五里霧の中、アパートを借りる準備を進めてきました。

その後、大規模な自然災害はどこで発生するか分かりませんが、この際の復旧復興事業への支援をする場合には、当該支部の奮闘が不可欠です。今回の東日本大震災復旧復興工事支援行動を教訓にしていく必要があると思います。

衣食住の住を確保し、二〇一二年12月から第1次派遣隊として4人を送りだし、二〇一三年4月から第2次派遣隊として3人を送り出しました。その後、3人が静岡に戻りましたが、その内1人は家族と共に宮城県に移住し、二〇一五年4月の段階では5人の仲間が被災地での就労に参加しています。

当初は、雪がめつたに降る事のない「南国」の静岡での生活に慣れている身体は雪が少なくとは言え、極寒の東北の冬を越せるかどうかが心配でした。しかし福島ダンブ支部の荒さんなど仲間の助言を受け、仕事に支障がないよう努力を重ね、生活面でも仲間と助け合いながら、無事に越冬することができたようです。

やがて慣れない一人暮らしも住めば都で、最初の頃は無縁で「夕飯は何にしようか」と相談して、「おれたちは主婦だな」と冗談混じりに話をし、料理をした事なかった方も奥さんからのレシピを元に料理するなど、支えあひながら生活してきたようです。

第1次派遣隊で1年4ヶ月、第2次派遣隊で1年が経過しており、一人暮らしに慣れたとは言え、難儀に耐えて仕事と生活をしているというのが現状で本音が下がる思いです。昨年11月には駐車場に保管していたスタッドレスタイヤ

4月5日(日)、宮城交通共闘が主催し「暮らしと職場の危機突破4・5車両デモ」をメインスローガンに掲げて車両デモが宮城県仙台市内で実施されました。

宮城ダンブ支部からもダンブ10台が参加しました。その他にトラック5台、タクシー20台、宣伝カー3台が参加し計38台が集まりました。決起集会の会場となる近物ロックス仙台支店の構内に総勢約70名が集結しました。

雨の中の決起集会では、来賓の方々、友好団体から激励を受け、建交労を代表して宮城ダンブ支部の佐々木誠副執行委員が実態を報告し決意表明を行いました。

本間宮城交通共闘議長の声頭でガンバロウ三唱し、その後、ダンブを先頭に仙台市内へと繰り出しました。すれ違う車、追い越していく車、振り向きながら、また、沿道にある人々は、傘を上げ横断

幕を見てくれました。連ねた車両、宣伝カーからの春闘に向けた要求は市民に関心を持っていただいていたアピールとなりました。

トトラック・ダンブデモ 15春闘要求をアピール 大阪パレード 3月15日(日)、関西支部主催、大阪府本部・関西プロトク生公連共催でトラック・パレードが開催されました。

パレード出発地である大阪市此花区舞洲には、二〇〇人を超える仲間たちと94台の車両(トラック・ミキサー車・バラセメント車・ダンブなど)が集結しました。

車両デモ 交通共闘車両デモ ダンブ要求をアピール

関西ダンブ支部からも10台12名が参加しました。集会では、たくさんの来賓の方から激励を受けました。集会後、二〇一五年春闘勝利にむけて「団結がんばろう」を全員で三唱しました。

常単価4万円以上へ 15春闘要求書を提出 広島ダンブ支部では呉の広伸建設で働く仲間たちが、単価4万円以上への引き上げを実現させようと3月25日に集会を開催し、要求をまとめ、3月末に会社へ要求書を提出しました。情勢やダンブの積算単価や要求根拠を議論し、昨年の交渉経過も報告し「要求の正当性に確信を持つ」ことを意思統一しました。

そして、日々の労働の相棒であるトラックやダンブに乗り込み、エンジン音も勇ましく、一台一台出発していきま

す。94台もの長蛇の隊列は、此花大橋をわたり住友系列の工場の並ぶ北港通り、野田阪神から新たなわ筋、長堀通りを進み、御堂筋を南下し心齋橋、なんばを通り、大田町で解散しました。

2015春闘とダンブの要求を仙台市民にアピールしました(4月5日宮城県仙台市内)



2015春闘とダンブの要求を仙台市民にアピールしました(4月5日宮城県仙台市内)